

SORA

web magazine 2019.jan. vol.104

Maldives *Travel*

モルディブ・アイランドサファリロイヤル号

憧れの赤道越えルートを初体験！

MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

毎年2、3月に催行される超スペシャルな赤道越えルート。お天気や海況が安定する乾季のみに開催され、王道ルートではお目にかかれないタイガーシャークを始め、数種類の珍しいサメに出会え、またナイトジンベエザメというスベクタクルな海中時間を味わうことができる。有名なチャネルではたくさんのサメが群れ、マダラトビエイが群泳する。赤道越えルートは、モルディブを目指すダイバーにとって、新しい特別なプレゼントを用意してくれるはず。モルディブの海で更なる刺激を求めるダイバーは、是非、赤道越えルートを経験して欲しい。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



ガーフ環礁まで行ってみる！

マレ到着後、国内線に乗り継いで、ガーフ環礁に夜遅く到着。その日は、簡単なブリーフィングのみを行い、翌日、最初のスタートは、ガーフ環礁の北東から潜り始めた。1本目に潜り込んだのは、viligili kandu というポイント。チェックダイブでありながら、サメがたくさん出るといふポイントで、それほど大きくはないパスセージがある外洋やコーナーでのダイビングとなる。チャネルの中に入り込むインゴイングの潮の流れで潜る。外洋でエントリーして、イエローバックフュージュラーとクマザサハナムロの群れの中を潜降していく。「どん」という音と共に、魚群が逃げ惑う。その後、イソマグロが群れから出てきた姿を見た。そして、コーナーに到着。水深26mの海底でブルーウォーターを見上げると何匹もメジロザメが泳いでいた。すぐ手前の岩がクリーニングステーションのようで、そこが一番サメに近づく。そこで少しサメを観察してから、チャネルの中に進む。するとドロップオフのところに、ギンガメアジが群れていた。その上をメジロザメの群れが行き来する。接近できるような、そうでないような野生の生き物との微妙な距離で、撮影を続ける。大きなイソマグロの編隊とも遭遇。ファーストダイブからなかなかの迫力と思いながら、チャネルの中へ。ブリーフィング通りにアオウミガメが多い。でもなぜか一番接近できたのは、通常ルートでたくさん会えるタイマイ……。タイマイを撮影していると、その向こうにマダラトビエイ3枚が砂地の上を飛んでいた。あっという間の50分ダイブだった。



Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号





Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号



チャネルで、サメの群れに歓迎される

2本目も viligili kandu へ。潮の流れが少し早くなっていたが、今回はチャネルクロスを行った。チャネルクロスとは、コーナーとコーナーのパスセージを横切ること。潮の流れの影響が一番受けている場所なので、サメやエイ、お魚たちがごっちゃりと群れている。そこを潜るには、うまく潮を見定めながら潜らないといけないが、ガイドさんと同じ水深で、指示に従ってついていけばほぼ問題がない。ただ、潜っている平均水深が深くなるので、空気残圧と無減圧最大時間はこまめに確認したい。エントリーして、1本目よりも少し強めに潮流を感じながら降りていく。チャネルが見え始めると、水深が30mほどにキープしてチャネルの少し沖合を泳ぎ始める。何匹ものメジロザメが目の前を通過していく。サメの数が少ないときはあまり気にせずに進んでいく。チャ

ネルを半分過ぎたあたりから、メジロザメの群れが良い感じになってきた。視界一杯とまではいかないが、それでもエキサイティングな時間には間違いない。カメラのレンズ越しに見ているのだけど、実際は間近に接近しているはず。幸せな時間。ガイドが鈴を大きく鳴らした。ちょうどメジロザメが良い感じにファインダーの中に収まっていたので、数カット撮影してから彼女を見た。後で聞くと、私がカメラを構えている反対側からハンマーヘッドシャークが1匹泳いでいたとのこと……。残念……。最後はマダラトビエイの群れを見て水深を上げ、少し長めの安全停止に。他のグループは、水中でハシナギルカを見たとのこと。素晴らしいポイントだ！

夜、大物魚類の
ファンタジーな海中景色

深夜1時半から始まった、ジンベエザメとのランデブー

Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号

今回、赤道まで行く前の初日の夜に一つの
メインイベントがあった。それは、ナイトジンベエ。

母船であるクルーズ船の後方デッキに大きなライトを用意し、光をあてることで、プランクトンを集め、そのプランクトンを捕食するためにジンベエザメがやってくるというもの。3本目のダイビングを終えた6時くらいから、スタッフがライトの光を海に照射し始めた。みんなは「10時くらいまでに来てくれれば嬉しいね!」などと言いながら夕食をとり、私は部屋に戻り休んでいると、知らないうちに寝落ちしていた。薄れ行く意識の中で、「あー今回は、ジンベエザメは出なかったのかな……」と少し思ったのを覚えている。しかし、ガイドの的場さんが「ジンベエザメが来ましたよ」と部屋に呼びに来てくれた。まるでそのタイミングを待っていたかのように飛び起きて、カメラを抱えて、部屋を飛び出し、後方デッキに向かった。時間はなんと1時半。その時間まで起きて待っていたゲストが、既にジンベエザメを船上からカメラで撮影している。私も少しだけ撮影して、「水中撮影したい!」と的場さんに伝える。横付けされているドローンに向かうと、もうゲストの2名が水中に入る準備をしている。「あっ、鍵井さん、人がいない状態でまず入ってください。私たちは去年、一緒に泳いでいるので!」と男性ゲスト2名に声を掛けられる。「アイランドサファリロイヤルのリピーターはどんだけ余裕があって、優しいねん!」と思いながら入水。ゆっくりと進んでいくと、ライトの光に当たったプランクトンを夢中で捕食するジンベエザメの姿が。少し立ち泳ぎの状態で泳いでいる。ライトの光をうまく使いながら撮影。2度ほど鋭い鳴き声と共にイルカが目の前を泳いだり、うまく撮影できず。ジンベエザメは、約1時間ほど、スノーケリングで撮影することができた。部屋に戻ったのが、夜中の2時半。興奮して寝れないかな?と思ったが、温かいものを飲んだ後は、またぐっすりと休むことができた。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく船

We
World explorer





ガーフ環礁での、面白いダイビングは続く！

2日目は、5時半に起床して6時からブリーフィング。昨晚2時半近くまでスノーケリングしていたのに、すっと起きることができた。期待で胸がいっぱいだ。1本目のポイントは、kooddoo kandu にエントリー。朝生まれだのブルーはどこまでも澄み渡り、どこか軽やか。透明度が高いので、各グループがブルーウォーターのどこにいるのかが一目瞭然。青い世界を漂っているとガイドのマウルフが下の方を指差す。最初は全然わからなかったけれど、サメのシルエットだけが見えた。後から聞くとシルキーシャークとのこと。撮影はできずだった。チャネルに近づき、メジロザメの群れと遭遇。朝一の爽やかダイビングとなった。2本目はさらに南下して、nilandhoo kandu へ。ここもコーナーダイブとなる。アウターリーフでエントリーして、コーナーに接近していく。アウターリーフでも十分に潮の流れがあり、体を持って行かれる。海底の岩をつかんで待っていると、サバヒーやマダラトビエイの群れが目の前を泳いでいく。そして、コーナーで待っている他のグループの横を通り抜けて、チャネルの中に。パラフエダイの群れの中をくぐり抜け、たくさん大きなアオウミガメと出会い、ダイビングを終えた。今回はかなり流れていたのに、生き物にまみれながらの良きトレーニング？（笑）となった。

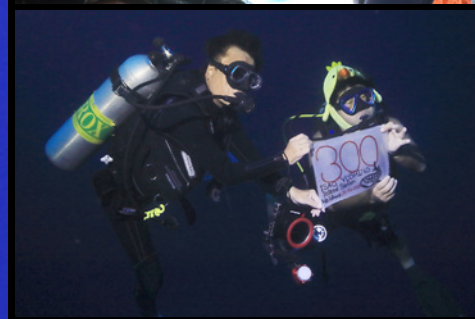
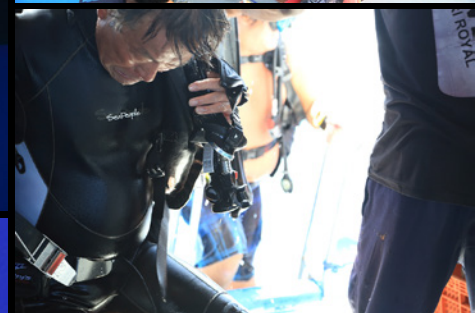
3本目は maareha kaande へ。ここも外洋、コーナー、チャネルとダイビングしていく。外洋ではまず、大きなギンガメアジの群れに遭遇。その群れに囲まれながらの至福の時。コーナーに集まるメジロザメを横目で見ながらチャネルの中に。このチャネルの中には白い砂地の道があり、その上を流れていく。すると前から、次々とアオウミガメとマダラトビエイが現れる。今回一番楽しかった出会いは、ハンカチサイズのマダラトビエイの子供に出会えたこと。砂地で食事をしながらゆっくりと泳いでいたので、接近することができた。チャネルの中がこんなに面白いとはなかなかの好ポイントだった。他にも、この日は4本目に gemanafushi muli で潜った。

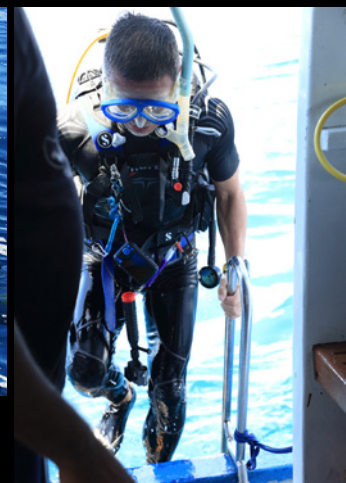
タイガーシャーク!!!!!!

夜中の1時にクルーズ船はさらに南下を続け、ガーフ環礁を離れ、フォームラへ。私たちは寝ている間に赤道を越えていた……(笑)。朝5時45分からブリーフィングがスタート。フォームラは、この赤道越えトリップの中でも大物と高確率で会えるエリア。エントリーしたのは、fuvamulah muli というポイント。昨年のトリップでは、タイガーシャークと大接近があったというポイント。今日は、ここで3本から4本の予定でダイビングを行う。夜明けすぐのまだ薄暗い海中にエントリーする。4つに分かれた各チームは、少し集まるような感じで集団で海中を泳いでいく。最初、ガイド陣は水深30mのところから搜索を開始し、その少し上あたりをゲストが泳ぐ。ガイドのマウルフが下を指差す。凝視するけど、全く何も見えず。あとでハンマーヘッドシャークがいたとジェスチャーがあった。そして少しずつ水深をあげながら、進んでいく。次にベルがなると、ガイド陣が指差す方向に一齐に泳ぐ。シルバーチップシャークの姿を捉えた。そのような感じで、ばらばらと現れる珍しい生き物を見ていく。ダイビングを終えると、板垣さんのチームが、タイガーシャークのペアを見ていたという。ダイビングの後半にチームがバラバラになった時に見たそうだ。「わー、博打だ!」と思いながら、会いたい生き物たちはいるんだと、2本目が更に楽しみになった。



Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号





モルディブでハンマーヘッドシャークの群れ!!!

2本目にタイガーシャークが現れた! ガイドの的場さんが下を指す! 大きな生き物がうごめいてる。水深は25mくらい。接近していくと、少し向こうを向きながら泳ぎ始める。ちょうど上から泳いできたゲストダイバーが超接近している。私のファインダーの中のタイガーシャークは、少し向こう向き……横縞の柄ははっきりと見えるのに……。それから、もう一度、正面から現れる。でも、カメラの射程距離の前に身を翻されてしまう……。う……もっと近くに行きたい(苦笑)!!! そして、ブルーウォーターをみんなでウロウロしながら、後半リーフが見えてきた。また的場さんが指差す海底には、明らかにタイガーシャークが泳いでいる。でも水深は50m。透明度が良いのではっきり見えるけど、さすがにナイトロックス33パーセントで、ダイビングの後半に

そこまで降りるのは躊躇した……。そして、3本目! 今度は、ガイド陣が一斉に下を指差した。大きな魚が泳いでいるな……と思いながら接近していくと、なんとハンマーヘッドシャークの群れだった。ちょうど水深40mあたりの潮の濁りがあるところを泳いでいる。深度を下げて、なんとかわかるように撮影を試みるも、頭の形がどこまで表現できたのか……。あとでマウルフに聞くと12匹までは数えたとのこと。興奮の1ダイブだった。このフォーマラでは3ダイブの予定だったので、ここで終了……。本当は、もっと珍しい生き物を間近で撮影したかった……。来年も来たい!!

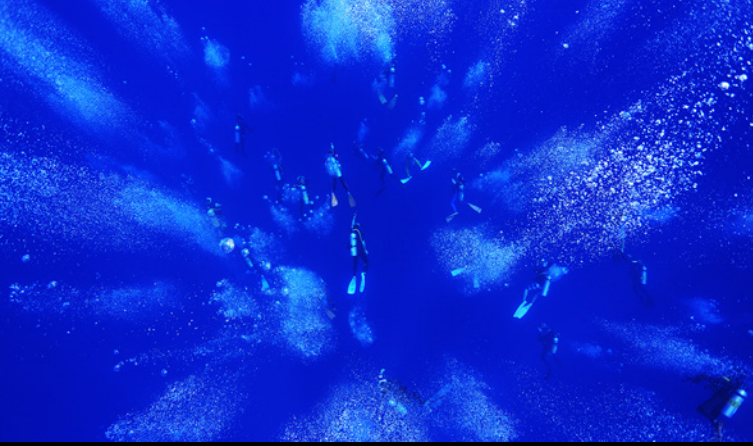


Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号

赤道付近の美しい夕焼け

そして、船は3時間ほど移動して、アッドウ環礁へ。日暮れ前には到着した。ここ数日、夕焼けが綺麗だったけど、いつも海から上がった時間だったので、今日は屋上のデッキで赤道付近の夕焼けをみんなで堪能した。





巨大ジンベエザメ、現る！！

アッドゥ環礁に移動して、1本目のダイビングは、bushi west。昨年までのご自慢のサンゴは、白化現象のせいか姿を変えていた。とても残念だけど、私たちがあまり訪れることのない海域でも、人間生活が影響しているのではないか?と思うと、この事実も知っておいた方が良いでしょう。2本目の meedhoo muli という環礁の北東に位置するポイントへ。移動するドーナツの上からでも海の違いがはっきりとわかる。他のエリアよりも優しく美しい青をしている。船上から眺めているだけでもうっとりする。そして、エントリー。水面から差し込む光が海中の1点に集まる。その光のラインが可視化され音色を奏でる。潜降していくダイバーを見下ろし、彼らが吐くエアのバブルの不規則なリズムの様子を撮影。すると皆の様子がなんだか慌ただしい……。なんと、シルキーシャークとシルバーチップシャークが現れていた。引き続きブルーウォーターを漂っていると、カンカンと合図が海中に響く。みんなが集まる方向に向かっていくと、大きな影が浮かぶ。「ジンベエザメだ!」と泳ぎ寄る。接近すればするほど、その個体の大きさに驚く。モルディブで見られるサイズよりも明らかに大きい。後でガイドの的場さんが「フィンを履いた鍵井さんの5倍のサイズはありました!」と教えてくれた。そう考えると10m級の個体。ゆっくりと悠然と潮の流れと同じ方向に泳いで行った。



ハンマーヘッドシャーク、シルキーシャークに大接近！！

Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号

翌日のフライトの関係で、最終日の5日目の朝は1ダイブとなった。選ばれたポイントは、meedhoo muli。昨日、ジンベエザメが現れた好ポイントである。昨日と同じように、少し外側でエントリー。そのまま潜降して、みんなまとまって水中移動を始める。最初はみんな一緒だが、やはり自分の腕に自信を持つガイド陣が揃っているの、なんとなく大きな集団から、少しずつ各グループが離れていく。今回、ガイドのマウルフの合図は早かった。「カン！ カン！ カン！」と金属音が響く。彼の指差す方向には、何匹ものシルキーシャークの姿が。好奇心旺盛な彼らは、私たちダイバーに興味を持ってくれるのか？ 私たちから付かず離れずで泳いでくれる。そのシルキーの群れの少し奥に泳いでいるのが、シルバーチップシャーク。小型で、どこことなくシャイな感じがとても愛おしい。そして、大きく丸く太ったようなサメが現れた。印象的な頭部が見えずとも、これまでの感じから、ハンマー

ヘッドシャークであることがわかった。水深を25mまで下げると、泳いでく
るハンマーヘッドシャークと接近することができた。「これが1チャンスだった

のかな？」と思うと、一緒に潜っていたゲストダイバーが「鍵井さん！」と叫んでくれた。振り向くと、またハンマーヘッドシャークがこっちに泳いでくる。幸運にも、そのようなチャンスが幾度となくあった。お陰で良いタイミング、良い距離で撮影することができた。少し大袈裟かもしれないが、まるで海のワンちゃんのように興味を持ってくれたのが、とても幸運だった。ラストダイブもサメまみれで終えることができた。通常コースではなかなかお目にかからない生き物との出会いは、やはり未知なる世界を垣間見た気持ちになった。





アイランドサファリ号の人気ガイド、 的場充弘に聞く赤道越えの概要と魅力



お天気、海況の安定するモルディブの乾季に開催される赤道越えルートは、およそ2月の2〜3週目と3月の1〜2週目の4週間に行います。1週目は北マールから南下し、7つの環礁のそれぞれの面白いポイントを

Travel
Maldives
モルディブ・アイランドサファリロイヤル号

潜りながら、ガーフ環礁まで向かいます。乾季は東からの潮が入り、東側のビッグポイントがかなり面白いので、まずリゾート滞在では経験のできない好ポイントばかりを潜ることができます。2週目は、ある意味本当に「赤道越えルート」で、まずマール空港から国内線に乗り継いで、ガーフ環礁のクドゥ空港に向かいます。そこでクルーズ船に乗船し、潜るルートは、ガーフ環礁、そして赤道を越えて、フォームラ、アッドゥ環礁です。ガーフ環礁などは、1年ぶりのガイドングになりますが、最近はデータもかなり蓄積され、また他のダイブサファリなども情報を共有しているので、大物を予測、狙いやすくなりました。また、このアイランドサファリロイヤル自体は、赤道越えは6年目ですが、それ以前のアイランドサファリ1号などからも催行しているために、ガイドのマウルフや船長などの経験も豊富です。そして、ダイブサファリの船脚も随分と早くなったのも、最近の赤道越えの人気のひとつかも知れません。最近、ガーフ環礁はリゾートが多くなり、環礁全体のポイントが開拓されていますが、特に東側に並ぶ有名なチャネルは、少しハードなドリフトになりながらも、イルカ、カジキ、ハンマーヘッドシャークは1セット。彼らは、外洋で見られる可能性がとても高いです。チャネルでのダイビングが有名なガーフ環礁ですが、近年、様々なデータが揃い、単純にチャネルでのダイビングではなく、きれいな砂地や隠れ根を見つけて、毎年ポイントは増えています。また、Boadoo island 付近で停泊して行うナイトジンベエザメも強烈なインパクトがあります。何時に出現するか神出鬼没ですが、たくさんのコバンザメを従えた、夜見るジンベエザメは本当に神秘的です。これまでに多い時には、5匹出現したこともありました。

そして、赤道を越えてのフォームラ。最初の頃は正解な潜り方がわからず、戸惑うこともありましたが、今は、これを狙うなら、こうコース取りをするなどと理解も深まり、大物との遭遇率が格段にアップしています。ブルーウォーターの少し深場をドリフトしていくので、少しハードですが、赤道を越えた最初の環礁で、一番の大物ポイントでもあります。会える生き物は、タイガーシャーク、ハンマーヘッドシャーク、カジキ、ニタリなどです。また、外洋性のマンタであるオニイトマキエイも回遊しています。どちらかと言うと、少し暗くて深く、ギャンブル性の高いフォームラに対して、モルディブの最南端であるアッドゥ環礁は、海中は明るい雰囲気があり、水温も少しだけ温かく感じます。残念ながら、温暖化でサンゴが傷んだ場所も目立ちますが、パウダーブルーサーजनフィッシュやマンタが迎えてくれます。そして、昨年からは潜り始めた meedhoo muli も素晴らしいポイントです。まだ3本しか潜っていませんが、昨年は、シルキーシャークとマダラトビエイの群れ。今年はジンベエザメとハンマーヘッドシャークなどと凄かったのも、これからが本当に楽しみです。有名なガーフ環礁もそうですが、赤道を越えた2つの環礁はとても魅力的で、潮流のあるブルーウォーターで、深い場所から現れる大物を狙うフォームラと、楽園(ばい)イメージがあるアッドゥ環礁、印象の異なるダイブスタイルが面白いと思います。3週目は、アッドゥ環礁、フォームラ、ガーフ環礁と北上し、4週目も、ガーフ環礁から北マール環礁まで、好ポイントを潜り続けながら、北上していきます。1年に1度のスペシャルなトリップなので、是非、皆さんに参加して欲しいですね。



Travel Maldives

モルディブ・アイランドサファリロイヤル号

クルー？ 食事？ 日本人ガイド？

人気のアイランドサファリロイヤル号の魅力は、「何と言っても、クルーが日本人の対応に慣れているということ」とガイド的場さんが話してくれた。確かに、アイランドサファリ号は、長く日本人向けのチャーターボートとして活躍し、日本人向けのホスピタリティが浸透しているのかもしれない。それは、モルディブ人ガイドでダイブサファリ生活21年に成るマウルフを始め、キャンプテンも然りで、私（鍵井）自身もマウルフに15年近く、モルディブの海を案内してもらい、変わらない優しい波長で対応をしてくれるので、心地よい。そんなホスピタリティは、食事にも具現化されている。現在のシェフは、インド出身で、料理のメニューも積極的に変化させるという。リピーターの多いアイランドサファリロイヤル号だが、リピーターに「また料理が変わったね」と言われることも少なくないという。今は日替わりカレーも人気でオススメ。船は、全長33mで、客室が10室。すべての部屋はシャワー、トイレ、冷房完備で、居住性は抜群だ。最近、船尾の後部デッキを寛ぎのソファタイプに変えたので、是非、ここで潮風を感じながらビールなども飲んで、皆で談笑して欲しい。日焼けしたい方には、もちろん半屋外のトップデッキもある。そして最大の魅力の一つは、アイランドサファリ歴10年以上のベテランガイド的場さんの存在だ。その時々で乗船している日本人スタッフもいるが、いつでもガイドしてくれる的場さんの存在は心強い。彼はモルディブで航海のない時は、南アフリカやタヒチ、インドネシアなど、世界中の海を潜り歩いているのでモルディブの海を知り、他の海も知っている。こんな心強いガイドはなかなか探しても見つからない。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく船

